

大阪府堺市におけるため池の水生植物の現状

中村 俊之*

Toshiyuki NAKAMURA : The Present State of Aquatic Plants of Irrigation Reservoirs
in Sakai City, Osaka Pref.

はじめに

堺市には多くのかんがい用ため池が存在する。それらのため池の水草については堺植物同好会(1976)が、64ヶ所のため池を調査し、45種を記録している。また植村(1983)はウキクサ科(Lemnaceae)植物について詳しく調査し、堺市内に6種が分布することを報告している。

しかし、堺植物同好会(1976)の調査からすでに15年以上経過し、また最近の都市化の進行にともなうため池の改修、埋め立て、水質汚濁などの水辺の環境変化により多くの水草が姿を消している。そこで筆者は堺市のため池における水草の近年の変化を知るため、堺植物同好会(1976)により調査されたため池64ヶ所の内31ヶ所でその現状調査を行った。

調査地と方法

調査は1991年9月30日から10月2日及び1992年7月1日に表1に示す31ヶ所のため池で行った。現地では池岸や池の中をできるだけ広く歩き、鍬型の採集具を用いてため池内に生育する水草を調べた。なお採集した標本は神戸大学鶴甲学舎生物学教室標本室に保管してある。

結果

記録された水草はヨシ、マコモ、ガマ類などの抽水植物を除くと20種である(表2)。表2では堺植物同好会(1976)の調査(以下1976年の調査とする)結果と比較して、今回の調査でも生育が確認された種を○、今回は確認されなかった種を●、新たに確認された種を+で表した。抽水植物を除く水草を記録したのは22ヶ所(71.0%)であった。平均出現種数は3種で、最も出現種数の多かったのは、No.12の池で8種が確認された。出現種を頻度別に並べたのが表3である。出現頻度の最も高かったのはヒシ類(ヒシ(11)、オニビシ(7))で45。

表1. 調査地点

No.*	所在地
1.	北長尾町 楠本池
2.	新堀町 今池
3.	新堀町 五反田池
5.	船堂町 新池
8.	中村町 尻池
9.	中村町 大池
10.	野遠町 北池
12.	黒土町 新池
13.	長曽根町 日高沢池
14.	長曽根町 中池
17.	引野町 小菅池
18.	向陵東町 八幡池
19.	浜寺船尾西町 今池
20.	浜寺元町 中ノ池
21.	浜寺元町 門ノ池
22.	鳳中町 石池
23.	鳳西町 夫婦池
24.	家原寺町 大池
25.	神野町 今池
31.	中百舌鳥町 但馬池
33.	新家町 星谷池
35.	野尻町 大津池
39.	草部 鶴田池
40.	草部 元禄池
41.	菱木 大谷池
42.	釜室 松尾池
49.	美木多 大池
52.	美木多 山田池
53.	美木多 ウワバミ池
60.	鉢ヶ峯寺 法道寺前の池
63.	鉢ヶ峯寺 内河池

*堺植物同好会(1976)のため池番号

*神戸大学理学部生物学教室

表2. 堺市におけるため池の水生植物の現状

	1	2	3	5	8	9	10	12	13	14	17	18	19	20	21	22	23	24	25	31	33	35	39	40	41	42	49	52	53	60	63		
トチカガミ		●	+				+	○	○	●																							
オオカナダモ				+				+																									
コカナダモ																									+								
クロモ																											●	●		●			
ヒルムシロ																									+		●						
ホソバミズヒキモ																									+		●	●		●			
エビモ																									+		●	●					
イトモ																											●	●					
トリゲモ																											●	●					
ホテイアオイ	+	●												●	●	●		●													○		
ウキクサ		○	○	+		●	○	+	+	○	+					○	●	+							+								
ヒメウキクサ	○	○								○	+																						
アオウキクサ		○		+			○																										
イボウキクサ	○	○								○	+	+																					
ミジンコウキクサ	○											+	+																				
ジュンサイ																											●	●					
ヒツジグサ																											●						
スイレン									○																								
オニバス		●						+	○							○	●																
マツモ																												●			●		
ヒシ		●	●			○	○	○	+		●				+		●				●		○	●	○	○	○	○	○	○	○		
オニビシ						○	○	○	+							○		○									○						
フサモ																																	
ガガブタ												●																					
キクモ																												●	○		+		
イヌタヌキモ																											●	○		+			
ノタヌキモ																											●	○					

○：1976年の調査でも今回の調査でも確認された種

●：1976年の調査で確認されたが、今回の調査では確認されなかった種

＋：今回の調査で新たに確認された種

表3. 水草の15年間の変化

	1976**	1991-'92	種数の増減	残存率(%)***
ヒシ類*	17	14	-6+3	82.4
ウキクサ類*	9	13	-3+7	144.4
ホテイアオイ	6	2	-5+1	33.3
トチカガミ	4	4	-2+2	100.0
オニバス	4	3	-2+1	75.0
ホソバミズヒキモ	3	1	-3+1	33.3
クロモ	3	0	-3	0.0
イヌタヌキモ	2	2	-1+1	100.0
キクモ	2	2	-1+1	100.0
ガガブタ	2	1	-1	50.0
マツモ	2	0	-2	0.0
トリゲモ	2	0	-2	0.0
イトモ	2	0	-2	0.0
ジュンサイ	2	0	-2	0.0
ヒルムシロ	1	1	-1+1	100.0
スイレン	1	1		100.0
ヒツジグサ	1	0	-1	0.0
フサモ	1	0	-1	0.0
オオカナダモ	0	2	+2	-
エビモ	0	2	+2	-
コカナダモ	0	1	+1	-

* 1976年の調査ではヒシ属とウキクサ科の植物は種の同定までされていないので、この表ではそれらをそれぞれヒシの類、ウキクサの類として比較する。

** 1976年に調査されたため池の内今回調査したため池についてその水草の出現回数を求めた。

*** 今回の調査時の種数/前回の調査時の種数×100として算出。

2%、ついでウキクサ類（ウキクサ（11）、イボウキクサ（5）、ヒメウキクサ（4）、ミジンコウキクサ（3）、アオウキクサ（3））で41.9%であった（表3）。平地のため池（No.1-42）ではウキクサ類とヒシ類が多く、ウキクサ類はこの地域にしか見られなかった。またこの地域を特徴づけるその他の種としてトチカガミ、オニバスがあげられる。丘陵地のため池（No.49-63）ではヒシ類が多く、平地のため池では見られないキクモ、イヌタヌキモ、ノタヌキモが確認された。

堺市のため池における15年間の水草相の変化

平地のため池（No.1-42）

この地域は1976年当時からすでに汚濁の進んだ池が多

く、汚濁に比較的強い種しか見られなかった。この15年間に2ヶ所のため池が埋め立てられ、3ヶ所から水草が消え、9ヶ所では何種かの水草が消滅した。この地域の水質汚濁がさらに進んでいるものと思われる。最も消滅率の高かった種はホテイアオイで6ヶ所中5ヶ所で消滅した。逆に1976年の調査では水草が確認されず、今回水草が確認された池が2ヶ所存在した。水草が確認された池の平均出現種数は2.5（ウキクサ科植物、ヒシ属植物をそれぞれ1種として計算）で、1976年の調査時(2.3)よりも増えている。増加した種はほとんどがウキクサ科植物であった。またオオカナダモ、コカナダモといった帰化植物が侵入していることも今回明らかになった。

なおこの地域には絶滅危惧種であるオニバスが生育す

るので、その現状について記録しておく。オニバスは1976年の調査時には今池 (No.2)、日高沢池 (13)、石池 (22)、夫婦池 (23) の4つの池で確認されていた。その内夫婦池 (No.23) は埋め立てにより池自体が消滅し、今池 (No.2) も池の水が完全に抜かれ、宅地予定地として看板が立てられていた (1992年には水が入られウキクサ科4種を確認)。日高沢池は1991年には見られなかったものの1992年には池の半分近くを覆っていた。また日高沢池と水路でつながっている新池 (14) は1991、'92年とも数個体を確認することができた。石池は1991年には数個体見られたものの、1992年には1個体も確認できなかった。

丘陵地のため池 (No.49-63)

この地域は宅地の造成 (泉北ニュータウン) により水のきれいなため池が少なくなってきた。この地域の水草の出現種数は1976年には5.8種であり、平地のため池よりも明らかに水草の豊富な池が多かったが、現在は2.0

種で丘陵地のため池の種の消滅が激しいことがわかる。特にNo.52の池は1976年の調査時にジュンサイやヒツジグサなど12種の水草が生育していたが、現在ではヒシしか生育しない池に変わってしまった。その他のため池でも沈水植物を中心に多くの水草が姿を消している。消滅した種はクロモ、イトモ、トリゲモ、ジュンサイ、ヒツジグサ、マツモの6種である (フトヒルムシロとウキシバについては1976年の調査時に見られた池を調査できなかったため現状は不明である)。これらの種は堺市から消滅してしまった可能性がある。この地域のため池は近い将来、No.52の池のようにヒシ類のみの池になってしまうのだろうか。

引用文献

- 堺植物同好会, 1976. 堺の植物 2:32-49
植村修二, 1983. 大阪府堺市におけるウキクサ科植物の分布. 水草研究会報 11:7-9

空知郡南幌町の水生植物数種

外山雅寛

1992年9月26日、苫小牧の湿原踏査の帰路のことである。普段はほとんど通ることのない長沼町を經由して南幌町へ入ったところ、近年できたという南幌温泉付近に湿地帯の跡があったのでのそいで見ることにした。川が近いので、土質は重粘土である。

確認できた植物はミズアオイ・ヘラオモダカ・フトイ・カヤツリグサ科 sp. の4種である。周辺部の様子を見ると、かなり重機が入った跡があり広面積が荒地となっている。南幌町といえば、かつては相当沢山の湿地があった地域であるが、現在は見渡す限りの美田が広がっていて、荒れ地に残されたわずかばかりの湿地も埋立てられる運命にある。

不明植物1種のみを採集し、角野先生へ送付したところ、カヤツリグサ科マルホハリイと同定された。北海道には比較的少ない植物と思われる。

同定をしていただいた角野先生には厚く御礼申し上げます。

山口県柳井市に再びシチトウ

南 敦

山口県のシチトウ *Cyperus monophyllus* Vohl は20年以上前に2か所記録されていたが、その後、開発等により不明になっていた。1992, 9. 22, 柳井市で再び見出したので報告する。柳井市での場所は次のとおり。1992-ゼンリン住宅地図「柳井」p106, F-2.5 柳井市古開作、浜本政男氏倉庫南側の溝 (幅1m) の縁、溝西側に長さ5m。生育はきわめてよい。近所に聞いたところでは昔からあったという。